

「ふでりんと共に導く交通安全プロジェクト」成果報告書

1 学校名

広島県立熊野高等学校

2 教育活動

区分 安全・安心な暮らしの確保

テーマ 交通事故の未然防止施策

3 連携した市町

熊野町

4 連携した企業、団体等

熊野町立小中学校（熊野第一小学校、熊野第二小学校、熊野第三小学校、熊野第四小学校、熊野中学校、熊野東中学校）、熊野交番、熊野町役場、海田警察署、株式会社安芸ネーム、中国新聞社

5 参加した生徒

芸術類型 アートディレクションコース2年生13名

美術コース2年生10名

6 活動

（1）目的

熊野町内の通学路は、狭小な裏道も多く、抜け道として使用する車両の交通量も多いため、児童生徒と車両の接触事故も発生している。そこで、危険箇所について実地調査やインタビューを行い、特に注意が必要な場所について、熊野町の観光PR大使「ふでりん」の注意喚起シート、注意喚起看板を制作・設置するとともに、横断旗を制作し、歩行者・運転者双方の交通安全意識を高めることを目的として活動を行った。

（2）内容

- ① 町内の小中学生に交通事故の危険性を感じる場所について聞き取り調査を行った。（9月）



- ② 町内の危険箇所について熊野町に取材を行った。(9月)



- ③ ①、②の結果を整理・分析して、路面貼付用注意喚起シートのサイズやデザインについて検討した。(9月)



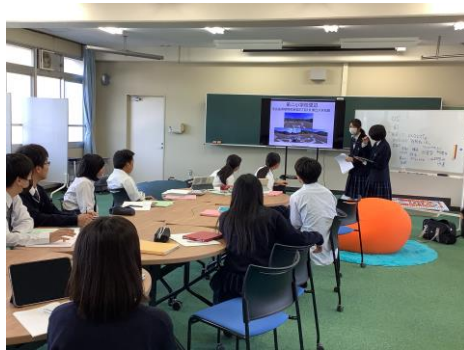
- ④ 検討結果をふまえて美術コース生徒にデザイン制作を依頼した。(9月～10月)



- ⑤ 注意喚起シート貼付候補箇所及びデザイン案を熊野町に提案した。(10月)



⑥ 熊野町の助言をもとに貼付場所を決定した。(10月～11月)



⑦ 海田警察署に道路使用許可申請の手続きを行った。(11月)

⑧ 専門業者から注意喚起シートの貼付方法を学んだ。(12月)



⑨ 海田警察署、熊野交番、熊野町役場、中国新聞社、熊野第四小学校6年生の協力のもと同校周辺の貼付作業を行った。(12月) 中国新聞(令和6年12月13日)に記事が掲載された。



⑩ 町内計13箇所に注意喚起シートを貼り付けた。(12月)



⑪ 本校正門横に注意喚起看板を設置した。(12月)



⑫ 町内小学校４校に横断旗を寄贈した。(12月)



⑬ 熊野町役場に赴き、工事完了報告を行った。(12月)



⑭ 連携した町内小中学校及び熊野高校の児童生徒を対象に、紙または Forms による交通安全アンケートを実施した。(12 月～1 月)

こうつうあんげんのシートについてのアンケート

わたしたち こうこうシートは あかき あんげんに わたしたちに ー
下の シェーデンの シートも 学校のまわりには けしました。
あてはまるものに印をつけてください。

1) この シェーデンの シートを 学校のまわりの あかで 悪たことありませんか？

飛び出し禁止

車 ストップ

左右確認

げん ぶない!

2) この シェーデンの シートを見て あきいして あかき わたしうと あかきほかがナク
たえは、あかき かりにんして あかき、 わたし、
あかきほかがナク、 あかきほかがナク、 あかきほかがナク、

アンケートのなかで最も多い回答がこうです。

交通安全事後アンケート 第三小学校3～6年

Ｂ Ｉ Ｕ ㊦ ㊧

私(わたし)はたけ野原小学校(まのこうこう)アートディレクションコース2年生は、交通安全でうつちやあんた(のまへ)とく(のく)として、下の写真(しゃしん)のシートを12月に町内(まちうち)しょうない(の)小学校(しょうがっこう)がつこう(の)両(ふた)まはりの道端(どうり)に貼(はり)りました。貼(はり)り付(つ)けた後(あと)このアンケートに答(こた)えよう(の)う(の)く(の)にだ(だ)さい。

学年(げん)が(が)く(が)ねん(ねん)を数(かず)して(して)ください。

☐ 3年生

☐ 4年生

☐ 5年生

☐ 6年生

何(なん)く(が)め(め)の敷(敷)いて(いて)ください。

☐ 1冊

☐ 2冊

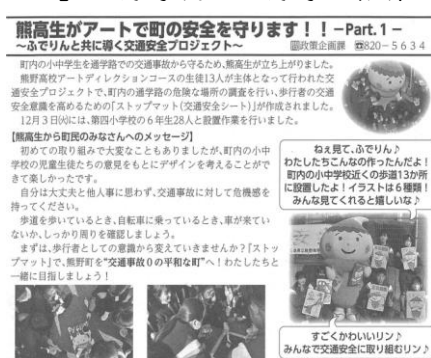
☐ 3冊

☐ 4冊

- ⑮ アンケートを集計・整理・分析し、報告書類を作成した。(1月)



- ⑯ 活動の様子が「広報くまの」1月号及び2月号で紹介された。



- ⑰ 熊野町及び町内小中学校の連携会議において、アートディレクションコース代表生徒が本取組について報告する。(3月予定)

- ⑱ 全校集会で、本取組について全校生徒に報告する。(3月予定)

(3) 効果

- ① 生徒自身が町内の小中学校や役場へ赴き聞き取り調査を行うことで、熊野町の実状を知り、課題意識をもつことができた。
- ② 地域住民の安全意識を向上させ、地域への愛着を深めることができた。
- ③ 町や警察など交通安全運動を展開する組織と高校生が連携することにより、その活動を活性化し、広く周知する契機となった。